

学校だより 希望の鐘

ひとつの鐘は、いちどしかひらかない



八戸市立 小中野中学校

平成29年2月10日(金)

No.74

文責：校長
工藤聡

もう一度「ハマショー」の歌を贈ります

私が30年近くずーっと好きなシンガーソングライターがいます。「浜田省吾（ハマダ・ショウゴ）」という人です。略してハマショーと言います。その方面では結構有名だったりします。約2か月ほど前、この学校だよりの66号でハマショーの歌の歌詞を3年生へのメッセージとして贈ったのですが、覚えているでしょうか。今日も、まずはハマショーの歌詞（「君と歩いた道」）を読んでみてください。

もし15才のあの夏に戻って / そこからもう一度やり直せたら / どんな人生送るだろう？
/ 今よりも若く強い体 / 学んだ知恵 活かして / 曲がりくねった道を行こうと
迷わない / 過ちや躓きを繰り返すことなく / 夢の階段 真っ直ぐに駆け上がってゆく
/ 若過ぎて思いやりもなく傷つけ 別れた人達 / また出遭えたら 心の絆 失わない
/ だけど もしも君とどこかですれ違って / 出遭うこともなくて愛されないのなら悲劇さ
/ もし15才のあの夏に戻って / そこからもう一度やり直せても /
この人生を選ぶだろう / 君と歩いた道をもう一度歩くだろう

『MY FIRST LOVE』というアルバムに収録されている恋の歌で、「もう一度人生をやり直すことができたとしても、絶対に君と再び一緒に人生を歩くだろう」というものです。なぜ、みなさんにこの歌詞を紹介したかという、特に3年生はそう思うことがあるのだと思いますが、そんなに遠くない過去に戻れたらと考えたことはありませんか。この歌詞では「15才の夏（高校1年生の夏だと思います）に戻って人生をやり直すことができたなら、今（何才かはわかりませんが、たぶん40代前後、戸来先生くらいの年齢だと私は思います）よりも若く強い体（高校1年生ですから当然です。ある意味最も運動機能が発達しつつある時期ですね。）に、それまでの人生経験をプラスして（要するに若い体に大人の知恵と、さらにもしかすると経験したことが予知能力として入るかもしれません）、希望したり夢見たことを、壁にあたったり挫折とかしないで、どんどん実現していこう」ということです。しかし、「君（奥さんでしょうか？それとも恋人でしょうか？）と出遭えなくなるのは困るから、もう一度人生をやり直せることになっても、今と同じ人生を歩くだろう」と結論づけています。それでは、みなさんはどうでしょうか？15才の夏を迎える前の年代ですから、そんなことを考えなくてもいいほど、無限の可能性が広がっています。しかし、年齢を重ねていくにしたがって、「あの時にこうやっておけば…」と後悔することが増えていきます。私も、大学受験に2年失敗し、教員採用試験も6回落ちて7度目（30歳）でなんとか先生になることができました。いわば、後悔の連続でした。最近も、お酒に酔って醜態（シュウタイ：見苦しく、恥ずべき状態）をさらし、猛省（モウセイ：強く反省すること）したばかりです。それでも、これまでの自分の人生を否定はしません。その場、その時をとりあえず一生懸命やってきたという思いがあるからです。

3年生は、いよいよ私立高校への受検に向けて正念場（ショウネンバ：その人が価値を発揮すべき重要な場面）を迎えます。結果が出た時に、「あの時、こうやっていれば良かった」ということにならないよう、残り4日間精一杯頑張ってください。1・2年生は、そんな3年生を応援しつつ、そこから何かを感じとってください。小中野中のみなさんが、何十年先の将来「もし過去に戻れるとしても、やはり小中野中時代にそのまま戻りたい」と思うような学校生活を送ってくれれば…と校長として強く思います。

